

水と私

丁寧な庭造りには、良い水がかかせません



(有)大宮造園土木

出垣 匠さん

個人宅の庭造りから公園や街路樹の維持管理まで、幅広く手がけられている(有)大宮造園土木の出垣さんにお話を伺いました。

今でこそ街路樹や公園がかなり整備されている苦小牧ですが、昭和30年頃の街なかにはほとんど樹木が無い状態だったそうです。

そもそも苦小牧は泥炭地や火山灰土が多く、また春先に吹付ける「樽前お

ろし」と呼ばれる強風や、初夏までの海霧による日照不足と塩害のため、樹木の生育には適さない土地でした。

そこに樹木を根付かせるには土壌改良が必要で、先人達は大変苦労されてきたとのこと。そして、そのノウハウは今も大切に受け継がれています。

苦小牧で樹木を育てるためには、まず土を入れ替えて、そこに様々な肥料で樹木に適した土になる様に調整していきます。

土壌の質を示す数値は幾つかありますが、その中の一つに水素イオン指数(PH)があります。樹木の生育に適した値は $\text{pH} \approx 5.5 \sim 7$ (弱酸性)ですが、与える水の水质によりこの値が変わる事もあり注意が必要だそうです。

その点、苦小牧の水道水は非常に水质が良く、まったく不安無く使えるそう。で、「何も気に掛ける必要の無い水がいつでも使えるのはありがたいこと

なんですよ。」とのことでした。

4〜5年くらい前から樹木の生育北限が変わり、苦小牧でも本州の樹木が使えるようになる等、気候の変化を強く感じるようになったそうで、「微力ですが街の緑化に寄与して行きたいと思います。」と述べられ、そのためにも「この質の良い水道水を大切に守って行って欲しい。」と笑顔で語っていただきました。



読者だより



市内末広町
ふくい 福井 都月さん

私は生まれてからの12年間ずっと苦小牧に住んでいたのですが、きれいな水が蛇口から出てくるのは、あたりまえのようなことで水への関心はあまりありませんでした。

ある日、お母さんに、「苦小牧の水道の施設見学会があるみたいだけど行ってみる？」と誘われたので行かせてもらいました。施設見学会に行かせてもらって、水や水道のことを勉強した後、家に帰って改めて水道水を飲んでみると「苦小牧の水道水はこんなにおいしかったんだ。」と感動しました。それらをきっかけに、水に関心を持つようになり、「今日はいつよりもより水を使いすぎてしまったかな。」などと気にするようになったりしました。これからもこのきれいでおいしい苦小牧の水を大切に使用させてもらいたいと思います。